

●新年 特別バイリンガル講演会(国際交流部会主催)

「びしっと決めるプレゼン！」



マイク・ヴァン・フッキーさん



平成26年1月25日(土)14:00~16:00市民交流センター1F講習室において、新春特別バイリンガル講演会が開催された。今年のプレゼンターはアメリカ人のマイク・ヴァン・フッキー(Mike Van Hoecke)さん(元英字新聞記者、現、都立中高一貫講師)。タイトルは「びしっと決めるプレゼン」"Speak like you mean it!"同時通訳は針山正俊さん(埼玉県立高校英語科教諭)をお願いした。(来場者数41名)

講演者のマイクさんは元新聞記者とあって、写真撮影の技術とスピーチ(プレゼンテーション)の共通点、そしてコントラスト(メリハリ)の重要さを解説された。

意外な展開にこれから一体どういう講義がされるのか、会場は心を驚掴みにされた。

講演時間のフルタイム内容は、全てお伝えできませんが、その一部だけ解りやすく紹介。

- ①東京オリンピック招致を決めた、あのプレゼンテーションは、日本人の発想では実現しなかった。
- ②国際社会におけるプレゼンは内容・目的が明確であること。
- ③表情は写真にたとえコントラスト・メリハリが大事で、伝えたい事を中心において小さな事は気にせずに素直に話す。
- ④多数の来場者でも、個人に話しかける。(ときには歩きまわってみたり)
- ⑤話す内容についてはしっかりと、リサーチしておく。
- ⑥感情移入は大小の声とポーズをとる。反面ニュートラルに話すことで、メリハリがつく。
- ⑦日本人は感情を表現しない人種である。話しをするときに脇を開けることで、会場全体が開放的になる。規律正しく脇を締めると、保守的な感じを与え期待感が乏しくなる。



エクササイズを受ける永井恵子さんと小町晴久さん

<国際交流部会だからできたバイリンガル講演会>

毎年1月に開催されるバイリンガル講演会は今回で9回目になります。毎年素晴らしい企画内容には関心するばかりです。その国際交流部会が発足して10年間、部長を務めているのが薄衣修二さんです。いつも坦々と、部会を見守って10年、部会員の活躍もさることながら、穏やかな性格と包容力は持って生まれ備わったものだと感じます。メリハリの効いたスピーチは今もって健在。今後も末永く国際交流部会を支えていただきたいと思います。

街づくり市民会議

マイクさんは講演だけでなく、参加者に対して、課題とエクササイズを提案した。「怒る・悲しい・幸せ」を表現することを、言葉でなく、声・表情・ゼスチャーで表現させた。日本人には一番苦手なことです。国際交流部会、会員の小町晴久さんと永井恵子さんは実に表現豊かにパフォーマンスされた。さすが!

2時間タイムリミットいっぱいの講演は素晴らしかった。そして、何より笑顔が素敵でダンディなマイクさんでした。

取材 / 広報部会・幡垣 誠



薄衣修二部長



通訳をされた針山正俊さん

読者のみなさん、たのしい国際交流部会の活動にご参加いたしませんか!